

エズラ記

第一章

一 ベルシャ王クロスの元年に、主はさ

きにエレミヤの口によつて伝えられた主の言葉を成就するため、ベルシャ王クロスの心を感動されたので、王は全国に布告を發し、また詔書をもつて告げて言つた、

「ニベルシャ王クロスはこのように言う、天の神、主は地上の国々をことごとくわたしに下さつて、主の宮をユダにあるエルサレムに建てることをわたしに命じられた。三 あなたがたのうち、その民である者は皆その神の助けを得て、ユダにあるエルサレムに上つて行き、イスラエルの神、主の宮を復興せよ。彼はエルサレムにいます神である。四 すべて生き残つて、どこに宿っている者でも、その所の人々は金、銀、貨財、家畜をもつて助け、そのほかにまたエルサレムにある神の宮のために真心よりの供え物をささげよ」。

五 そこでユダとベニヤミンの氏族の長、祭司およびレビびとなど、すべて神にその心を感動された者は、エルサレムにある主の宮を復興するために上つて行こうと立ち上がった。六 その周囲の人々は皆、銀の器、金、貨財、家畜および宝物を与えて彼らを力づけ、そのほかにまた、もろもろの物を惜しげなくささげた。セクロス王はまた

ネブカデネザルが、さきにエルサレムから携へ出して自分の神の宮に納めた主の宮の器を取り出した。八 すなわちベルシャ王クロスは倉づかさミテラダテの手によつてこれを取り出して、ユダのつかさセシバザルに数え渡した。九 その数は次のとおりである。金のたらい一千、銀のたらい一千、香炉二十九、金の鉢三十、銀の鉢二千四百十、その他の器一千、二金銀の器は合わせて五千四百六十九あったが、セシバザルは捕囚を連れてバビロンからエルサレムに上つた時、これらのものをことごとく携へて上つた。

第二章

一 バビロンの王ネブカデネザルに捕え

られて、バビロンに移された者のうち、捕囚をゆるされてエルサレムおよびユダに上つて、おのおの自分の町に帰つたこの州の人々は次のとおりである。二 彼らはゼルバベル、エシユア、ネヘミヤ、セラヤ、レエラヤ、モルデカイ、ビルシヤン、ミスバル、ビグワイ、レホム、バアナと共に歸つてきた。

三 そのイスラエルの民の人数は次のとおりである。四 パロシの子孫は二千百七十二人、五 シパテヤの子孫は三百七十二人、六 アラの子孫は七百七十五人、七 パハテ・モアブの子孫すなわちエシユアとヨアブの子孫は二千八百十二人、八 エラムの子孫は一千二百五十四人、九 ザツトの子孫は九百四十五人、十 ザツカイの子孫は七百六十人、十一 パニの子孫は六百四十二人、十二 バイの子孫は六百二

十三人、^三アズガデの子孫は一千二百二十二^人、^三アド
ニカムの子孫は六百六十六^人、^四ビグワイの子孫は二千
五十六^人、^五アデンの子孫は四百五十四^人、^六アテルの
子孫すなわちヒゼキヤの子孫は九十八^人、^七ベザイの子
孫は三百二十三^人、^八ヨラの子孫は百十二^人、^九ハシユ
ムの子孫は二百二十三^人、^{一〇}ギバルの子孫は九十五^人、
^{一一}ベツレヘムの子孫は百二十三^人、^{一二}ネトバの人々は五
十六^人、^{一三}アナトテの人々は百二十八^人、^{一四}アズマウテ
の子孫は四十二^人、^{一五}キリアテ・ヤリム、ケビラおよび
ベエロテの子孫は七百四十三^人、^{一六}ラマおよびゲバの子
孫は六百二十一^人、^{一七}ミクマシの人々は百二十二^人、
^{一八}ベテルおよびアイの人々は二百二十三^人、^{一九}ネボの子
孫は五十二^人、^{二〇}マグビシの子孫は百五十六^人、^{二一}他の
エラムの子孫は一千二百五十四^人、^{二二}ハリムの子孫は三
百二十^人、^{二三}ロド、ハデデおよびオノの子孫は七百二十
五人、^{二四}エリコの子孫は三百四十五^人、^{二五}セナアの子孫
は三千六百三十^人。
^{二六}祭司は、エシユアの家のエダヤの子孫九百七十二^人、
^{二七}インメルの子孫一千五十二^人、^{二八}パシユルの子孫一千
二百四十七^人、^{二九}ハリムの子孫一千十七^人。
^{三〇}レビびとは、ホダヤの子孫すなわちエシユアとカデ
ミエルの子孫七十四^人、^{三一}歌うたう者は、アサフの子孫
百二十八^人、^{三二}門衛の子孫は、シャルムの子孫、アテル
の子孫、タルモンの子孫、アックブの子孫、ハテタの子

孫、^{三三}シヨバイの子孫合わせて百三十九^人、^{三四}ミヤ
宮に仕えるしもべたちは、^{三五}デハの子孫、^{三六}ハスパの子
孫、^{三七}タバオテの子孫、^{三八}ケロスの子孫、^{三九}シアハの子孫、
^{四〇}パドンの子孫、^{四一}レバナの子孫、^{四二}ハガバの子孫、^{四三}アック
ブの子孫、^{四四}ハガブの子孫、^{四五}シャルマイの子孫、^{四六}マハナ
ンの子孫、^{四七}ギデルの子孫、^{四八}ガハルの子孫、^{四九}レアヤの
子孫、^{五〇}レザンの子孫、^{五一}ネコダの子孫、^{五二}ガザムの子孫、
^{五三}ウザの子孫、^{五四}パセアの子孫、^{五五}ペサイの子孫、^{五六}アスナ
の子孫、^{五七}メウニムの子孫、^{五八}ネフシムの子孫、^{五九}バクブク
の子孫、^{六〇}ハクバの子孫、^{六一}ハルホルの子孫、^{六二}バヅリテの
子孫、^{六三}メヒダの子孫、^{六四}ハルシヤの子孫、^{六五}バルコスの子
孫、^{六六}シセラの子孫、^{六七}テマの子孫、^{六八}ネザアの子孫、^{六九}ハテ
パの子孫である。
^{七〇}ソロモン^{のしもべ}たちの子孫は、^{七一}ソタイの子孫、
^{七二}ハツソベレテの子孫、^{七三}ペリダの子孫、^{七四}ヤアラの子孫、
^{七五}ダルコンの子孫、^{七六}ギデルの子孫、^{七七}シパテヤの子孫、
^{七八}ハツテルの子孫、^{七九}ボケレテ・ハツゼバイムの子孫、^{八〇}アミ
の子孫。
^{八一}宮に仕えるしもべたちとソロモン^{のしもべ}たちの子
孫とは合わせて三百九十二^人。
^{八二}次にあげる人々はテル・メラ、テル・ハレサ、ケル
ブ、アダンおよびインメルから上つて来た者であつた
が、彼らはその氏族とその血統とを示して、そのイスラ
エルの者であることを明らかにすることができなかつ

た。六〇すなわちデラヤの子孫、トビヤの子孫、ネコダの子孫で合せて六百五十二人。六二祭司の子孫のうちにはハバヤの子孫、ハッコツの子孫、バルジライの子孫があつた。バルジライはギレアデびとバルジライの娘たちのうちから妻をめとつたので、その名で呼ばれることになった。六三これらの者は系譜に載つた者たちのうちに自分の名を尋ねたが見いだされなかつたので、汚れた者として、祭司の職から除かれた。六四総督は彼らに告げて、ウリムとトンミムを身につける祭司の興るまでは、いと聖なる物を食べてはならないと言つた。

六五会衆は合せて四万二千三百六十人であつた。六六このほかに、しもべおよびはしため合せて七千三百三十七人、また歌うたう男女二百人あつた。六六その馬は七百三十六頭、その騾馬は二百四十五頭、六七そのらくだは四百三十五頭、そのろばは六千七百二十頭あつた。

六八氏族の長数人はエルサレムにある主の宮の所にきた時、神の宮をもとの所に建てるために真心よりの供え物をささげた。六九すなわち、その力に従つて工事のために倉に納めたものは、金六万一千ダリク、銀五千ミナ、祭司の衣服百かさねであつた。

七〇祭司、レビびと、および民のある者はエルサレムおよびその近郊に住み、歌うたう者、門衛および宮に仕えるしもべたちはその町々に住み、一般のイスラエルびとは自分たちの町々に住んだ。

第三章

一こうしてイスラエルの人々はその町に住んでいたが、七月になつて、民はひとりのようにエルサレムに集まつた。二そこでヨザダクの子エシユアとその仲間の祭司たち、およびシャルテルの子ゼルバベルとその兄弟たちは立つて、イスラエルの神の祭壇を築いた。これは神の人モーセの律法にしろされたところに従つて、その上に燔祭をささげるためであつた。三彼らは国々の民を恐れていたので、祭壇をもとの所に設けた。そしてその上で燔祭を主にささげ、朝夕それをささげた。四また、しろされたところに従つて仮庵の祭を行い、おきてに従つて、毎日ささぐべき数のとおりに、日々の燔祭をささげた。五そしてその後は常燔祭、新月と主のすべて定められた祭とにささげる供え物および各自が主にささげる真心よりの供え物をささげた。六すなわち七月一日から燔祭を主にささげることを始めたが、主の宮の基礎はまだすえられてなかつた。七そこで石工と木工に金を渡し、またシドンとツロの人々に食ひ物、飲み物および油を与えて、ペルシヤ王クロスから得た許可に従つて、レバノンからヨツパの海に香柏を運ばせた。

八さてエルサレムの神の宮に帰つた次の年の二月に、シャルテルの子ゼルバベルとヨザダクの子エシユアはその兄弟である他の祭司、レビびとおよび捕囚からエルサレムに帰つて来たすべての人々と共に工事を始め、二十歳以上のレビびとを立てて、主の宮の工事を監督させ

た。九そこでエダの子孫であるエシユアとその子らおよびその兄弟、カデミエルとその子らは共に立つて、神の宮で工事をなす者を監督した。ヘナダデの子らおよびレビびとの子らと、その兄弟たちもまた一緒にあった。一〇こうして建築者が主の宮の基礎をすえた時、祭司たちは礼服をつけてラツパをとり、アサフの子らであるレビびとはシンバルをとり、イスラエルの王ダビデの指令に従って主をさんびした。二彼らは互に歌いあって主をほめ、かつ感謝し、

「主はめぐみ深く、

そのいつくしみは

とこしえにイスラエルに絶えることがない」

と言った。そして民はみな主をさんびするとき、大声を

あげて叫んだ。主の宮の基礎がすえられたからである。

三しかし祭司、レビびと、氏族の長である多くの人々の

うちに、もとの宮を見た老人たちがあつたが、今この宮

の基礎のすえられるのを見た時、大声をあげて泣いた。

また喜びのために声をあげて叫ぶ者も多かった。四それ

で、人々は民の喜び叫ぶ声と、民の泣く声とを聞きわけ

ることができなかつた。民が大声に叫んだので、その声

が遠くまで聞えたからである。

第四 章 エダとベニヤミンの敵である者たち

は捕囚から帰ってきた人々が、イスラエルの神、主のた

めに神殿を建てている事を聞き、ニゼルバベルと氏族の

長たちのもとに来て言った、「われわれも、あなたがたと一緒にこれを建てさせてください。われわれはあなたがたと同じく、あなたがたの神を礼拝します。アッスリヤの王エサル・ハドンがわれわれをここにつれて来た日からこのかた、われわれは彼に犠牲をささげてきました」。

三しかしゼルバベル、エシユアおよびその他のイスラエルの氏族の長たちは、彼らに言った、「あなたがたは、われわれの神に宮を建てることにあずかつてはなりません。ペルシャの王クロス王がわれわれに命じたように、われわれだけで、イスラエルの神、主のために建てるのです」。

四そこでその地の民はエダの民の手を弱らせて、その建築を妨げ、五その企てを破るために役人を買収して彼らに敵せしめ、ペルシャ王クロスの代からペルシャ王ダリヨスの治世にまで及んだ。

六アハスエロスの治世、すなわちその治世の初めに、彼らはエダとエルサレムの住民を訴える告訴状を書いた。

七またアルタシヤスタの世にビシラム、ミテレダテ、

タビエルおよびその他の同僚も、ペルシャ王アルタシヤ

スタに手紙を書いた。その手紙の文はアラム語で書かれ

て訳されていた。八長官レホムと書記官シムシヤイはア

ルタシヤスタ王にエルサレムを訴えて次のような手紙を

したためた。九すなわち長官レホムと書記官シムシヤイ

およびその他の同僚、すなわち裁判官、知事、役人、ペルシャ人、エルクの人々、バビロン人、スサの人々すなわちエラムびと、^{一〇}およびその他の民すなわち大いなる尊いオスナバルが、移してサマリヤの町々および川向このその他の地に住ませた者どもが、^二送った手紙の写しはこれである。——「アルタシヤスタ王へ、川向このあなたのしもべども、あいさつを申し上げます。^三王よ、ご承知ください。あなたのもとから、わたしたちの所に上つて来たユダヤ人らはエルサレムに来て、かのそむいた悪い町を建て直し、その城壁を築きあげ、その基礎をつくらっています。^四王よ、いまご承知ください。もしこの町を建て、城壁を築きあげるならば、彼らはみづぎ、関税、税金を納めなくなります。そうすれば王の収入が減るでしょう。^五われわれは王宮の塩をはむ者ですから、王の不名誉を見るに忍びないので、人をつかわして王にお聞かせするのです。^六歴代の記録をお調べください。その記録の書において、この町はそむいた町で、諸王と諸州に害を及ぼしたものであることを見、その中に古来、むほんの行われたことを知られるでしょう。この町が滅ぼされたのはこれがためなのです。^七われわれは王にお知らせいたします。もしこの町が建てられ、城壁が築きあげられたなら、王は川向この領地を失うに至るでしょう」。

^七王は返書を送って言った、「長官レホム、書記官シム

シャイ、その他サマリヤおよび川向このほかの所に住んでいる同僚に、あいさつをする。いま、^八あなたがたがわれわれに送った手紙を、わたしの前に明らかに読ませた。^九わたしは命令を下して調査させたところ、この町は古来、諸王にそむいた事、その中に反乱、むほんのあったことを見いだした。^{一〇}またエルサレムには大いなる王たちがあつて、川向この地をことごとく治め、みづぎ、関税、税金を納めさせたこともあつた。^{一一}それであなたがたは命令を伝えて、その人々をとどめ、わたしの命令の下るまで、この町を建てさせてはならない。^{一二}あなたがたは慎んでこのことについて怠ることのないようにしなさい。どうして損害を増して、王に害を及ぼしてよからうか」。

^{一三}アルタシヤスタ王の手紙の写しがレホムおよび書記官シムシャイとその同僚の前に読み上げられたので、彼らは急いでエルサレムのユダヤ人のもとにおもむき、腕力と権力とをもって彼らをやめさせた。^{一四}それでエルサレムにある神の宮の工事は中止された。すなわちペルシャ王ダリヨスの治世の二年まで中止された。

第五章

^一さて預言者ハガイおよびイドの子ゼカリヤのふたりの預言者は、ユダとエルサレムにいるユダヤ人に向かつて、彼らの上にいますイスラエルの神の名によって預言した。^二そこでシャルテルの子ゼルバベ

レムにある神の宮を建て始めた。神の預言者たちも、彼らと共にいて彼らを助けた。

三その時、川向こうの州の知事タテナイおよびセタル・ボズナイとその同僚は彼らの所に来てこう言った、「だれがあなたにたにこの宮を建て、この城壁を築きあげることを命じたのか」。四また「この建物を建てている人々の名はなんというのか」と尋ねた。五しかしエダヤ人の長老たちの上には、神の目が注がれていたので、彼らはこれをやめさせることができず、その事をダリヨスに奏して、その返答の来るのを待った。

六川向こうの州の知事タテナイおよびセタル・ボズナイとその同僚である川向こうの州の知事たちが、ダリヨス王に送った手紙の写しは次のとおりである。七すなわち、彼らが王に送った手紙には、次のようにしるされてあった。「願わくはダリヨス王に全き平安があるように。八王に次のことをお知らせいたします。すなわち、われわれがエダヤ州へ行き、かの大いなる神の宮へ行つて見たところ、それは大きな石をもって建てられ、材木を組んで壁をつくり、その工事は勤勉に行われ、彼らの手によつて大いにはかどっています。九そこでわれわれはその長老たちに尋ねてこう言いました、『だれがあなたにたにこの宮を建て、この城壁を築きあげることを命じたのか』と。一〇われわれはまた彼らのかしらたる人々の名を書きしるして、あなたにお知らせするために、その名を

尋ねました。二すると、彼らはわれわれに答えてこう言いました、『われわれは天地の神のしもべであつて、年久しい昔に建てられた宮を、再び建てるのです。これはもと、イスラエルの大いなる王の建てあげたものです。三われわれの先祖たちが、天の神の怒りを引き起したため、神は彼らを、カルデヤびとバビロンの王ネブカデネザルの手に渡されたので、彼はこの宮をこわし、民をバビロンに捕えて行きました。三ところがバビロンの王クロスの元年に、クロス王は神のこの宮を再び建てることの命令を下されました。四またクロス王は先にネブカデネザルが、エルサレムの宮からバビロンの神殿に移した神の宮の金銀の器を、バビロンの神殿から取り出して、彼が総督に任じたセシバザルという名の者に渡して、五彼に言われました、『これらの器を携えて行つて、エルサレムにある宮に納め、神の宮をもとの所に建てよ』と。六そこでこのセシバザルは来てエルサレムにある神の宮の基礎をすえました。その時から今に至るまで、建築を続けていますが、まだ完成しないのです』と。七それで今、もし王がよしと見られるならば、バビロンにある王の宝庫を調べて、エルサレムの神のこの宮を建てることの命令が、はたしてクロス王から出ているかどうかを確かめ、この事についての王のお考えをわれわれに伝えてください』。

第六章 一そこでダリヨス王は命を下して、バ

ピロンのうちで、古文書をおさめてある書庫を調べさせ
たところ、ニメデヤ州の都エクパタナで、一つの巻物を
見いだした。そのうちにこうしるされてある。

「記録。ミクロス王の元年にクロス王は命を下した、『エ
ルサレムにある神の宮については、犠牲をささげ、燔祭
を供える所の宮を建て、その宮の高さを六十キュビトに
し、その幅を六十キュビトにせよ。大いなる石の層を
三段にし、木の層を一段にせよ。その費用は王の家から
与えられる。五またネブガデネザルが、エルサレムの宮
からバビロンに移した神の宮の金銀の器物は、これをか
えて、エルサレムにある宮のものと所に持つて行き、
これを神の宮に納めよ』。

六「それで川向こうの州の知事タテナイおよびセタル・
ボズナイとその同僚である川向こうの州の知事たちよ、
あなたがたはこれに遠ざかり、七神のこの宮の工事を彼
らに任せ、ユダヤ人の知事とユダヤ人の長老たちに、神
のこの宮をもとの所に建てさせよ。八わたしはまた命を
下し、神のこの宮を建てることについて、あなたがたが
これらのユダヤ人の長老たちになすべき事を示す。王の
財産、すなわち川向こうの州から納めるみつぎの中から、
その費用をじゅうぶんそれらの人々に与えて、その工事
を滞らないようにせよ。九またその必要とするもの、す
なわち天の神にささげる燔祭の子牛、雄羊および小羊な
らびに麦、塩、酒、油などエルサレムにいる祭司たちの

求めにしたがつて、日々怠りなく彼らに与え、二彼らに
こうばしい犠牲を天の神にささげさせ、王と王子たちの
長寿を祈らせよ。二わたしはまた命を下す。だれでもこ
の命ずる所を改める者があるならば、その家の梁は抜き
取られ、彼はその上にくぎづけにされ、その家はまた、
これがために汚物の山とされるであらう。三これを改め
ようとする者、あるいはエルサレムにある神のこの宮を
滅ぼそうとして手を出す王あるいは民は、かしこにその
名をとどめられる神よ、願わくはこれを倒されるよう
に。われダリヨスは命を下す。心してこれを行え」。

三「ダリヨス王がこう言い送ったので、川向こうの州の
知事タテナイおよびセタル・ボズナイとその同僚たちは
心してこれを行った。四そしてユダヤ人の長老たちは、
預言者ハガイおよびイドの子ゼカリヤの預言によって建
て、これをなし遂げた。彼らはイスラエルの神の命令に
より、またクロス、ダリヨスおよびベルシャ王アルタ
シヤスタの命によつて、これを建て終った。五この宮は
ダリヨス王の治世の六年アダル月の三日に完成した。
六そこでイスラエルの人々、祭司たち、レビびとおよ
びその他の捕囚から帰った人々は、喜んで神のこの宮の
奉獻式を行った。七すなわち神のこの宮の奉獻式におい
て、雄牛一百頭、雄羊二百頭、小羊四百頭をささげ、ま
たイスラエルの部族の数にしたがつて、雄やぎ十二頭を
ささげて、すべてのイスラエルびとのための罪祭とした。

一八 またモーセの書にしるされてあるように祭司を組別に
より、レビびとを班別によつて立て、エルサレムで神に
仕えさせた。

一九 こうして捕囚から帰つて来た人々は、正月の十四日
に過越の祭を行った。二〇 すなわち祭司、レビびとたちは
共に身を清めて皆清くなり、すべて捕囚から帰つて来た
人々のため、その兄弟である祭司たちのため、また彼ら
自身のために過越の小羊をほふた。二一 そして捕囚から
帰つて来たイスラエルの人々、およびその地の異邦人の
汚れを捨てて彼らに連なり、イスラエルの神、主を拝し
ようとする者はすべてこれを食べ、三喜んで七日の間、
種入れぬパンの祭を行った。これは主が彼らを喜ばせ、
またアツスリヤの王の心を彼らに向かわせ、彼にイスラ
エルの神にいます神の宮の工事を助けさせられたからで
ある。

第七章

一 これらの事の後、ペルシャ王アルタ

シヤスタの治世にエズラという者があつた。エズラはセ
ラヤの子、セラヤはアザリヤの子、アザリヤはヒルキヤ
の子、ヒルキヤはシャルムの子、シャルムはザドクの
子、ザドクはアヒトブの子、三アヒトブはアマリヤの
子、アマリヤはアザリヤの子、アザリヤはメラヨテの子、
四メラヨテはゼラヒヤの子、ゼラヒヤはウジの子、ウジ
はブツキの子、五ブツキはアビシユアの子、アビシユア
はピネハスの子、ピネハスはエレアザルの子、エレアザ

ルは祭司長アロンの子である。六 このエズラはバビロン
から上つて来た。彼はイスラエルの神、主がお授けに
なつたモーセの律法に精通した学者であつた。その神、
主の手が彼の上にあつたので、その求めることを王はこ
とごとく許した。

七 アルタシヤスタ王の七年にまたイスラエルの人々お
よび祭司、レビびと、歌うたう者、門衛、宮に仕えるし
もべなどエルサレムに上つた。八 そして王の七年の五月
にエズラはエルサレムに来た。九 すなわち正月の一日に
バビロンを出立して、五月一日にエルサレムに着いた。
その神の恵みの手が彼の上にあつたからである。一〇 エズ
ラは心をこめて主の律法を調べ、これを行い、かつイス
ラエルのうちに定めとおきてを教えた。

二 主の戒めの言葉、およびイスラエルに賜つた定め
に通じた学者で、祭司であるエズラにアルタシヤスタ王
の与えた手紙の写しは、次のとおりである。三 諸王の
王アルタシヤスタ、天の神の律法の学者である祭司エズ
ラに送る。今、三わたしは命を下す。わが国のうちにい
るイスラエルの民およびその祭司、レビびとのうち、す
べてエルサレムへ行こうと望む者は皆、あなたと共に
行くことができる。四 あなたは、自分の手にあるあなたの
神の律法に照して、ユダとエルサレムの事情を調べるた
めに、王および七人の議官によつてつかかわされるのであ
る。五 かつあなたは王およびその議官らが、エルサレム

にいますイスラエルの神に真心からささげる銀と金を携え、一六またバビロン全州であなたが獲るすべての金銀、および民と祭司とが、エルサレムにあるその神の宮のために、真心からささげた供え物を携えて行く。二七それであなたはその金をもって雄牛、雄羊、小羊およびその素祭と灌祭の品々を氣をつけて買い、エルサレムにあるあなたがたの神の宮の祭壇の上に、これをささげなければならぬ。一八また、あなたとあなたの兄弟たちが、その余った金銀でしようと思ふよい事があるならば、あなたがたの神のみに従つてそれを行え。一九またあなたがたの神の勤め事のためにあなたが与えられた器は、エルサレムの神の前に納めよ。二〇そのほかあなたの神の宮のために用うべき必要なものがあれば、それを王の倉から出して用いよ。

三二われ、アルタシヤスタ王は川向こうの州のすべての倉づかさに命を下して言う、『天の神の律法の学者である祭司エズラがあなたがたに求める事は、すべてこれを心して行え。二三すなわち銀は百タラントまで、小麦は百コルまで、ぶどう酒は百バテまで、油は百バテまで、塩は制限なく与えよ。二四天の神の宮のために、天の神の命じるところは、すべて正しくこれを行え。そうしないと神の怒りが、王と王の子らの国に臨むであらう。二五われは、またあなたがたに告げる、『祭司、レビびと、歌うたう者、門衛、宮に仕えるしもべ、および神のこの宮

の仕えびとたちには、みつぎ、租税、税金を課してはならぬ』。

二五エズラよ、あなたはあなたの手にある神の知恵によつて、つかさおよび裁判人を立て、川向こうの州のすべての民、すなわちあなたの神の律法を知っている者たちを、ことごとくさばかせよ。あなたがたはまたこれを知らない者を教えよ。二六あなたの神の律法および王の律法を守らない者を、きびしくその罪に定めて、あるいは死刑に、あるいは追放に、あるいは財産没収に、あるいは投獄に処せよ。

二七われわれの先祖の神、主はほむべきかな。主はこのように、王の心に、エルサレムにある主の宮を飾る心を起させ、二八また王の前と、その議官の前と王の大臣の前で、わたしに恵みを得させられた。わたしはわが神、主の手がわたしのう上にあるので力を得、イスラエルのうちから首領たる人々を集めて、わたしと共に上らせた。

第八章 アルタシヤスタ王の治世に、バビロンからわたしと一緒に上つて来た者の氏族の長、およびその系譜は次のとおりである。二九ビネハスの子孫のうちではゲルシヨム。イタマルの子孫のうちではダニエル。ダビデの子孫のうちではシカニヤの子ハツトシ。三〇パロシの子孫のうちではゼカリヤおよび彼と共に系譜に載せられた男百五十人。三一パハテ・モアブの子孫のうちではセラヒヤの子エリヨエナイおよび彼と共にある男二百

人。五ザツツの子孫のうちではヤハジエルの子シカニヤおよび彼と共にある男三百人。六アデンの子孫のうちではヨナタンの子エベデおよび彼と共にある男五十人。七エラムの子孫のうちではアタリヤの子エサヤおよび彼と共にある男七十人。八シパテヤの子孫のうちではミカエルの子ゼバデヤおよび彼と共にある男八十人。九ヨアブの子孫のうちではエヒエルの子オバデヤおよび彼と共にある男二百十八人。一〇バニの子孫のうちではヨシピアの子シロミテおよび彼と共にある男百六十人。一一ベバイの子孫のうちではベバイの子ゼカリヤおよび彼と共にある男二十八人。一二アズガデの子孫のうちではハツカタンの子ヨハナンおよび彼と共にある男百十人。一三アドニカムの子孫のうちでは後に来た者どもで、その名はエリベレテ、ユエル、シマヤおよび彼らと共にある男六十人。一四ビグワイの子孫のうちではウタイとザツクルおよび彼らと共にある男七十人である。

一五わたしは彼らをアハワに流れる川のほとりに集めて、そこに三日のあいだ露営した。わたしは民と祭司とを調べたが、そこにはレビの子孫はひとりもいなかった。そこで、二人をつかわしてエリエゼル、アリエル、シマヤ、エルナタン、ヤリブ、エルナタン、ナタン、ゼカリヤ、メシラムという首長たる人々を招き、またヨヤリブ、およびエルナタンのような見識のある人々を招いた。一七そしてわたしはカシピアという所の首長イドのもとに

彼らをつかわし、カシピアという所にいるイドと、その兄弟である宮に仕えるしもべたちに告ぐべき言葉を、彼らに授け、われわれの神の宮のために、仕え人をわれわれに連れて来いと言った。八われわれの神がよくわれわれを助けられたので、彼らはイスラエルの子、レビの子、マヘリの子孫のうちの思慮深い人、すなわちセレビヤおよびその子らとその兄弟たち十八人を、われわれに連れて来、一〇またハシャビヤおよび彼と共に、メラリの子孫のエサヤとその兄弟およびその子ら二十人、一一および宮に仕えるしもべ、すなわちダビデとそのつかさたち、レビびとに仕えさせるために選んだ宮に仕えるしもべ二百二十人を連れてきた。これらの者は皆その名を言って記録された。

一三そこでわたしは、かしこのアハワ川のほとりで断食を布告し、われわれの神の前で身をひくくし、われわれと、われわれの幼き者と、われわれのすべての貨財のために、正しい道を示されるように神に求めた。一五これは、われわれがさきに王に告げて、「われわれの神の手は、神を求めらるすべての者の上にやさしく下り、その威力と怒りとはすべて神を捨てる者の上に下る」と言ったので、わたしは道中の敵に対して、われわれを守るべき歩兵と騎兵とを、王に頼むことを恥じたからである。一七そこでわれわれは断食して、このことをわれわれの神に求めたところ、神はその願いを聞きいれられた。

二 わたしはおもだった祭司十二人すなわちセレビヤ、ハシャビヤおよびその兄弟十人を選び、三 金銀および器物、すなわち王と、その議官と、その諸侯およびすべて在留のイスラエルびとが、われわれの神の宮のためにささげた奉納物を量って彼らに渡した。二 わたしが量って彼らの手に渡したものは、銀六百五十タラント、銀の器百タラント、金百タラントであつた。三 また金の大杯が二十あつて、一千ダリクに当る。また光り輝く青銅の器二個あつて、その尊いこと金のものである。二八 そしてわたしは彼らに言った、「あなたがたは主に聖別された者である。この器物も聖である。またこの金銀は、あなたがたの先祖の神、主にささげた真心よりの供え物である。二九 あなたがたはエルサレムで、主の宮のへやの中で、祭司長、レビびとおよびイスラエルの氏族のかしらたちの前で、これを量るまで、見張り、かつ守りなさい。三〇 そこで祭司およびレビびとたちは、その金銀および器物を、エルサレムにあるわれわれの神の宮に携えて行くため、その重さのものを受け取った。

三 われわれは正月の十二日に、アハワ川を出立してエルサレムに向かったが、われわれの神の手は、われわれの上にあつて、敵の手および道に待ち伏せする者の手から、われわれを救われた。三 われわれはエルサレムに着いて、三日そこにいたが、三 四 目にわれわれの神の宮の内で、その金銀および器物を、ウリヤの子祭司メレモ

テの手に量って渡した。ピネハスの子エレアザルが彼と共にいた。またエシユアの子ヨザバデ、およびビンヌイの子ノアデヤのふたりのレビびとも、彼らと共にいた。三 四 すなわちそのすべての数と重さとを調べ、その重さは皆書きとめられた。

三 五 そのとき捕囚の人々で捕囚から帰つて来た者は、イスラエルの神に燔祭をささげた。すなわちイスラエル全体のために雄牛十二頭、雄羊九十六頭、小羊七十七頭をささげ、また罪祭として雄やぎ十二頭をささげた。これらはみな、主にささげた燔祭である。三六 彼らはまた王の命令書を、王の総督たち、および川向この州の知事たちに渡したので、彼らは民と神の宮とを援助した。

第 九 章 一 これらの事がなされた後、つかさ

ちは、わたしのもとに来て言った、「イスラエルの民、祭司およびレビびとは諸国の民と離れないで、カナンびと、ヘテびと、ペリジびと、エブスびと、アンモンびと、モアブびと、エジプトびと、アモリびとなどの憎むべき事を行いました。二 すなわち、彼らの娘たちをみずからめとり、またそのむすこたちにめとつたので、聖なる種が諸国の民とまじりました。そしてつかさたる者、長たる者が先だつて、このとがを犯しました。三 わたしはこの事を聞いた時、着物と上着とを裂き、髪の毛とひげを抜き、驚きあきれてすわった。四 イスラエルの神の言葉におののく者は皆、捕囚から帰つて来た人々のとがのゆえ

に、わたしのもとに集まったが、わたしは夕の供え物の時まで、驚きあきれてすわった。五夕の供え物の時になって、わたしは断食から立ちあがり、着物と上着を裂いたまま、ひざをかがめて、わが神、主にむかつて手をさし伸べて、六言った、

「わが神よ、わたしはあなたにむかつて顔を上げるのを恥じて、赤面します。われわれの不義は積って頭よりも高くなり、われわれのところが重くなって天に達したからです。われわれの先祖の日から今日まで、われわれは大いなるとがを負い、われわれの不義によって、われわれとわれわれの王たち、および祭司たちは国々の王たちの手にわたされ、つるぎにかけられ、捕え行かれ、かすめられ、恥をこうむりました。今日のとおりです。ところがいま、われわれの神、主は、しばし恵みを施して、のがれ残るべき者をわれわれのうちに置き、その聖所のうちに確かなよりどころを与え、こうしてわれわれの神はわれわれの目を明らかにし、われわれをその奴隷のうちにあつて、少しく生き返らせられました。われわれは奴隷の身でありますが、その奴隷たる時にも神はわれわれを見捨てられず、かえってペルシャ王たちの目の前でいつくしみを施して、われわれを生き返らせ、われわれの神の宮を建てさせ、その破壊をつくらせ、ユダとエルサレムでわれわれに保護を与えられました。わかれわれの神よ、この後、何を言うことができま

しょう。われわれは、あなたの戒めを捨てたからです。二あなたはかつて、あなたのしもべである預言者たちによって命じて仰せられました、『おまえたちが行って獲ようとする地は、各地の民の汚れにより、その憎むべきわざによって汚れた地で、この果から、かの果まで、その汚れに満ちている。三それでおまえたちの娘を、彼らのむすこに与えてはならない。彼らの娘を、おまえたちをも福祉をも求めてはならない。そうすればおまえたちは強くなり、その地の良き物を食べ、これを永久におまえたちの子孫に伝えて嗣業とさせることができる』と。三われわれの悪い行いにより、大いなるとがによって、これらすべてのことが、すでにわれわれに臨みましたが、われわれの神なるあなたは、われわれの不義よりも軽い罰をくだして、このように残りの者を与えてくださったのを見ながら、四われわれは再びあなたの命令を破つて、これらの憎むべきわざを行う民と縁を結んでよいでしようか。あなたはいわれわれを怒つて、ついに滅ぼし尽し、残る者も、のがれる者もないようにされるのではないでしようか。五ああ、イスラエルの神、主よ、あなたは正しくいらせられます。われわれはのがれて残ること今日のとおりです。われわれは、とがをもってあなたの前にあります。それゆえだれもあなたの前に立つことはできません」。

第一〇章

「エズラが神の宮の前に泣き伏して祈り、かつざんげしていた時、男、女および子供の多いな群集がイスラエルのうちから彼のもとに集まってきた。民はいたく泣き悲しんだ。二時にエラムの子孫のうちのエヒエルの子シカニヤが、エズラに告げて言った、「われわれは神にむかつて罪を犯し、この地の民から異邦の女をめとりました。しかし、このことについてはイスラエルに、今なお望みがあります。三それでわれわれはわが主の教と、われわれの神の命令におのく人々の教とに従って、これらの妻ならびにその子供たちを、こことごく追いつ出すという契約を、われわれの神に立てましょう。そして律法に従ってこれを行いましよう。四立ちあがってください、この事はあなたの仕事です。われわれはあなたを助けます。心を強くしてこれを行いなさい。五エズラは立って、おもだった祭司、レビびとおよびすべてのイスラエルびとに、この言葉のように行うことを誓わせたので、彼らは誓った。

六エズラは神の宮の前から出て、エリアシブの子ヨハナンのへやにはいったが、そこへ行っても彼はパンも食べず、水も飲まずに夜を過ごした。これは彼が、捕囚から帰った人々のとがを嘆いたからである。七そしてユダおよびエルサレムにあまねく布告を出し、捕囚から帰ったすべての者に告げて、エルサレムに集まるべき事と、八つかさおよび長老たちのさとしに従って、三日のうち

にこない者はだれでもその財産はことごとく没収され、その人自身は捕われ人の会から破門されると言った。

九そこでユダとベニヤミンの人々は皆三日のうちにエルサレムに集まった。これは九月の二十日であった。すべての民は神の宮の前の広場に座して、このことのため、また大雨のために震えおののいていた。一〇時に祭司エズラは立って彼らに言った、「あなたがたは罪を犯し、異邦の女をめとって、イスラエルのとがを増した。二それで今、あなたがたの先祖の神、主にざんげして、そのみ旨を行いなさい。あなたがたはこの地の民および異邦の女と離れなさい。三すると会衆は皆大声をあげて答えた、「あなたの言われたとおり、われわれは必ず行います。四しかし民は多く、また大雨の季節ですから、外に立っていることはできません。またこれは一日やふつかの仕事ではありません。われわれはこの事について大いに罪を犯したからです。五それでどうぞ、われわれのつかさたちは全会衆のために立つてください。われわれの町の内にも、もし異邦の女をめとった者があるならば、みな定めの際にこさせなさい。またおのの町の長老および裁判人も、それと一緒にこさせなさい。そうすればこの事によるわれわれの神の激しい怒りは、ついにわれわれを離れるでしょう。六五ところがアサヘルの子ヨナタンおよびテクワの子ヤハジアはこれに反対した。そしてメシュラムおよびレビびととシャベタイは彼らを支持した。

一六そこで捕囚から帰つて来た人々はこのように行つた。すなわち祭司エズラは、氏族の長たちをその氏族にしたがい、おのおのその名をさして選んだ。彼らは十月の一日から座してこの事を調べ、一七正月の一日になつて、異邦の女をめとつた人々をことごとく調べ終つた。

一八祭司の子孫のうちで異邦の女をめとつた事のあらわれた者は、ヨザダクの子エシユアの子ら、およびその兄弟たちのうちではマアセヤ、エリエゼル、ヤリブ、ゲダリヤであつた。一九彼らはその妻を離縁しようという誓いをなし、すでに罪を犯したというので、そのとがのために雄羊一頭をささげた。二〇インメルの子らのうちではハナニおよびゼバデヤ。二一ハリムの子らのうちではマアセヤ、エリヤ、シマヤ、エヒエル、ウジヤ。二二パシユルの子らのうちではエリオエナイ、マアセヤ、イシマエル、ネタンエル、ヨザバデ、エラサ。

二三レビびとのうちではヨザバテ、シメイ、ケラヤ(すなわちケリタ)、ペタヒヤ、ユダ、エリエゼル。二四歌うたう者のうちではエリアシブ。門衛のうちではシャルム、テレム、ウリ。

二五イスラエルのうち、バロシの子らのうちではラミヤ、エジヤ、マルキヤ、ミヤミン、エレアザル、ハシヤビヤ、ベナヤ。二六エラムの子らのうちではマッタニヤ、ゼカリ

ヤ、エヒエル、アブデ、エレモテ、エリヤ。二七ザツトの子らのうちではエリオエナイ、エリアシブ、マッタニヤ、エレモテ、ザバデ、アジザ。二八ペバイの子らのうちではヨハナン、ハナニヤ、ザバイ、アテライ。二九バニの子らのうちではメシユラム、マルク、アダヤ、ヤシユブ、シャル、エレモテ。三〇パハテ・モアブの子らのうちではアダナ、ケラル、ベナヤ、マアセヤ、マッタニヤ、ベザレル、ピンヌイ、マナセ。三一ハリムの子らのうちではエリエゼル、イシヤ、マルキヤ、シマヤ、シメオン、三二ベニヤミン、マルク、シマリヤ。三三ハシユムの子らのうちではマツテナイ、マッタタ、ザバデ、エリバレテ、エレマイ、マナセ、シメイ。三四バニの子らのうちではマアダイ、アムラム、ウエル、三五ベナヤ、ベデヤ、ケルヒ、三六ワニア、エレモテ、エリアシブ、三七マッタニヤ、マツテナイ、ヤアス。三八ピンヌイの子らのうちではシメイ、三九シレミヤ、ナタン、アダヤ、四〇マクナデバイ、シャヤイ、シャライ、四一アザリエル、シレミヤ、シマリヤ、四二シャルム、アマリヤ、ヨセフ。四三ネボの子らではエイエル、マッタテヤ、ザバデ、ゼビナ、ヤツダイ、ヨエル、ベナヤ。四四これらの者は皆異邦の女をめとつた者である。彼らはその女たちをその子供と共に離縁した。